

資料1 基調講演 「みんなで考える矢作川流域の自然」

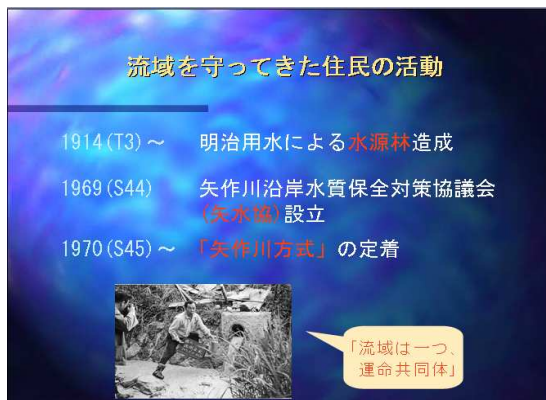
講師 / 豊田市矢作川研究所主任研究員 洲崎 燈子氏



1



2



3



4



5



6



7



8

豊田市矢作川研究所の誕生

- 研究所の設立経緯
「豊田市矢作川環境整備計画検討委員会」(1990~93)の提言を受け、1994年に豊田市、矢作川漁業協同組合、被下用土地改良区の合同出資による第三セクター方式で発足
- 1998年より常勤研究員を配置、2003年より市営に

9

矢作川研究所は

- ・ 豊かな水量
- ・ 良好な水質
- ・ 流域住民に潤いとゆとりを与える河川環境をめざして活動しています

矢作川研究所の活動

矢作川漁業協同組合
矢作川環境整備区
矢作川環境整備区
河川生物調査・水産資源調査など
川の水質調査など

矢作川環境整備区
矢作川漁業協同組合

矢作川研究所の活動

矢作川環境整備区
矢作川漁業協同組合

矢作川研究所の活動

矢作川環境整備区
矢作川漁業協同組合

10

研究所の組織と所員

所長	梶田一美	総括研究員	間野雅裕 (昆虫生態)
副所長	富田昌和	主任研究員	洲崎裕子 (植物生態)
事務局長	内田良平	主任研究員	山本敏哉 (魚類生態)
総務担当	田口美恵子	研究員	白金晶子 (水生生物生態)
	滝野綾子	研究員	内田明子 (環境生物)
		研究員	逢 志保 (人文社会学)
		研究員	酒井博剛 (魚類生態)
常任顧問	松武義徳	研究顧問	古川 彰 (環境社会学) (関西学院大学)
			中西正巳 (水域生態学・陸水学) (京都大学)

11

水域の調査・研究

- 水産資源保護調査

アユをはじめ豊かな水産資源の復活をめざして、地元の漁業関係者が構成する「矢作川天然アユ調査会」、豊田市、中部電力、矢作川漁協と天然アユの生態の調査・研究を継続。

1999年
河川におけるアユの保全対策 (16項目) を提言。

2005年
海域におけるアユの保全対策 (10項目) を提言。

アユの生活史

12

天然アユ調査会




- ・1996年9月に設立
- ・正会員30人、準会員40人
- ・天然アユ調査（産卵場、流下仔魚、地引網、遡上、釣獲等）の実働部隊として活躍するアユの達人たち

13

河川環境調査

- アユの餌となる付着藻類の研究
釣果が悪化しているアユの餌である付着藻類の質と量を調査
- カワヒバリガイ調査
近年矢作川で大繁殖している特定外来生物カワヒバリガイの分布と発生量の把握
- オオカナダモ駆除対策調査
大繁殖しているオオカナダモの駆除方法の検討と駆除効果の検証



14

陸域の調査・研究

「川を生きかしたまちづくり」調査

- 豊田市の中心部に残る自然（里山、社寺林）の現況を把握し、街の快適さと景観、また生き物の生息環境としても良好な、水と緑を生かしたまちづくりを提案。
- ・自然緑地と水路の生物調査
- ・土地利用史の調査
- ・市民の意識調査



15

河畔緑調査

- 河辺の植生と動物相の特徴を把握し、環境に配慮した河川整備のための提言を行う。

オンドリ

クヤキ林

アヤマキ林



16

水源林基礎調査

河川における長質な水資源の確保
↓
健全な水源林を保全する必要性

矢作川流域の森林面積の半分、流域面積の1/3を占める人工林の現況と緑のダム機能の調査

源流域の人工林



17

矢作川 森の健康診断

矢作川水系森林ボランティア協議会（矢森協、2004～）と地域の森林研究者が手を組んで、市民参加型の人工林の健康調査を実施（2005年から10年継続）
→ 流域の人工林の5～6割が間伐遅れであることを確認

2008年度 朝日新聞社 明日への環境賞受賞



18

研究成果と流域の情報の公開



所報「矢作川研究」

矢作川研究所シンポジウム

他...データベースの公開、ミニシンポジウムなど

19

川の環境改善をめざす活動団体の連携のサポート

矢作川「川会議」



- ・ 5月の第2土曜を「矢作川の日」として矢作川に関わる諸団体が集まり、住民による川づくりを考える

- ・ 2001（平成13）年に第1回を開催、「矢作川宣言」を採択
- ・ 現在は15団体が構成

2001年度 第4回川の日ワークショップ グランプリ受賞

20

矢作川学校



- 目的
川や里山の自然と文化を守り継承する子どもを育成する

- 事業内容
 - 小中学校・コミュニティ等の総合学習の自然領域の講師の要請にこたえた講師派遣事業
 - 川遊び事業
 - 子供自然体験事業
 - 会員研修事業

21